

令和2年度事務事業外部評価結果に対する対応

事業名称と目的・概要	外部評価人からの主な意見等	市の主な対応内容・方針等	今後の方向性
<p>事業①</p> <p>ふるさと納税 【財政課】</p> <p>【目的】 川越市が取り組む事業を応援したいという市民や市外の方の気持ちを寄附を通じて実現するとともに、事業の実施に必要な財源の確保を図ろうとするもの。また、寄附者に返礼品を送付し、本市の特産品の紹介やイベント情報の発信をすることで、地域産業の振興や来訪のきっかけづくりにつなげていく。</p> <p>【概要】 寄附を募集する事業の紹介、寄附者情報の管理、返礼品の配送手配、書類の受理及び発送を行う。</p> <p>【対象事業に選定された理由】 魅力的な返礼品の充実や、寄附対象事業をより具体的に示すなどのPR方法を検討し、寄附件数、寄附金額を増加させる取組みを行う必要がある。</p>	<p>1</p> <p>【制度(しくみ)に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世間の注目もあり、寄付件数も伸びており、市のPRの役割もあることから、引き続き実施してほしい。 ・市へのふるさと納税による流入額がある一方、川越市民が他市に寄附することによる流出部分は財政上重要だが光が当たりづらく、舵取りは難しいだろう。 ・目的をどこに置いて、誰に注目して制度設計をするか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと納税」は、自治体の取組に関心を持ってもらい応援する仕組みであることから、特に市外の方を対象に市の取組に対するPRを積極的に進めていきます。 ・寄附者に対する返礼品は、本市の特産品を多くの方に知っていただくきっかけにつながることから、現在よりもさらに多くの特産品を返礼品として紹介していきます。 ・本市のふるさと納税の現状を周知するため、本市への寄附額と川越市民が他の自治体に寄附した場合の本市の市税減収分に関する周知をしていきます。 	<p>【改善】</p> <p>ふるさと納税の返礼品については、本市の特産品や取組などをPRするため、内容の充実に努めていきます。あわせて、本市の市税減収分の状況など、本市のふるさと納税に係る現状については、市民へ周知をしていきます。また、事務の効率化を図るため、業務の一部について、民間委託化を図ります。</p>
	<p>2</p> <p>【市の考え方に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な財政運営と財源確保において、行政として実施すべき事業。 ・ふるさと納税額の増加と、税の流出の抑制により、流出超過状況の改善が求められる。ふるさと納税額の増加には産業観光等の他部署と連携して返礼品を発掘すること、流出抑制には市民への広報が必要で、これらを一つのパッケージとして推進してほしい。 ・首都圏では税の流出が多く厳しい制度であるが、それを市民に知ってもらうことも必要ではないか。それにより、財政面を含めた市の課題を認識してもらうことにもつながるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・返礼品の充実、寄附者へのアピールとともに本市の特産品を周知する機会でもあることから、産業観光部など他部署との連携を図り、内容の充実に努めていきます。 ・本市のふるさと納税の現状を周知するため、本市への寄附額と川越市民が他の自治体に寄附した場合の本市の市税減収分に関する周知をしていきます。 	
	<p>3</p> <p>【有効性に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の推進は社会のニーズに適合しており、一定の成果をあげている。 ・実績をあげる点からすると、返礼品の調達費用を若干増やす余地があるのではないか。 ・ふるさと納税を通じて川越を知ってもらい、来訪して楽しんでもらえるよう、広告としての効果があると考えてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総務省から示された基準を踏まえ、返礼品の割合は寄附額の3割以内としていますが、令和元年度は令和元年東日本台風の際の被災者支援として返礼品なしの寄附を募集したため、寄附額に対する返礼品等の調達費用の割合は、16%となりました。今後も基準の範囲内で魅力ある返礼品の充実を図っていきます。 ・寄附者に対する返礼品は、本市の特産品を多くの方に知っていただくきっかけにつながるから、現在よりもさらに多く特産品を返礼品として紹介していきます。 	
	<p>4</p> <p>【効率性に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率性を向上させるため、民間への業務委託は妥当な路線だと思う。 ・返礼品の発注や事務的な部分は、時期が集中することや、効率性の点から外部に委託してよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在職員が実施している返礼品の発注、証明書の発送等の業務を民間事業者へ委託することにより、返礼品の迅速な発送、ふるさと納税業務の効率化を進めていきます。 	
	<p>5</p> <p>【手法に関すること】</p> <p>《返礼品の選定、見直しについて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選定を庁内で行う場合は、産業、観光、農業に関する部署などと横断的に取り組んでほしい。 ・庁内での検討や事業者からの提案を待つだけでなく、市内の事業者から一斉に希望をとってはどうか。 ・返礼品の選定等は、専門家の意見を聞いて取り組まないと出ていく一方になる。これはビジネスであって、市の職員になじむ仕事ではない。 ・ワークショップ形式などで市民からアイデアを募集してはどうか。参加した市民が川越を好きになり、税の流出を知るきっかけにもなる。 <p>《配送方式について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う種類の酒が毎月一本届く、米が毎月届くといったサブスクリプション方式のニーズがあるのではないか。 <p>《返礼品について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・返礼品は食品にこだわらず、さまざまな業界から選んでよいのではないか。 ・物品だけではなく、川越の特色を生かした体験型の返礼品を売りにすべき。川越まつりの衣装を着る体験など、インスタ映えを意識してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・返礼品の充実、寄附者へのアピールとともに本市の特産品を周知する機会でもあることから、産業観光部など他部署との連携を図り、内容の充実に努めていきます。 ・以前には、複数回にわたって寄附者に返礼品を送付する取組もあったことから、返礼品の発送方法の工夫に取り組んでいきます。 ・これまで取り組んできた「川越まつりの山車曳き体験」、「旧山崎家別邸食事付き案内ツアー」、「小江戸川越ハーフマラソン出走体験」のほかにも、寄附者にとって魅力的な返礼品であるとともに、川越での貴重な経験となるような体験型返礼品の拡充を図ります。 	
	<p>6</p> <p>【今後の方向性について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄附を集めるといふならば、高額所得者やマニアの好みに合う返礼品を選ぶ必要があるが、一方で、返礼品を送付しない自治体もあり、そもそも返礼品が必要なのかという視点も含め、市として適当な方向性を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと納税」は、自治体の取組に関心を持ってもらい応援する仕組みであるとともに、寄附者に対する返礼品は、本市の特産品を多くの方に知っていただくきっかけにつながるから、現在よりもさらに多くの特産品を返礼品として紹介し「ふるさと納税」の充実に努めていきます。 	

令和2年度事務事業外部評価結果に対する対応

事業名称と目的・概要	外部評価人からの主な意見等	市の主な対応内容・方針等	今後の方向性
<p>事業②</p> <p>在宅要介護高齢者等紙おむつ給付 【高齢者いきがい課】</p> <p>【目的】 在宅の要介護高齢者に対し、紙おむつを給付することにより、本人及び家族の経済的負担を軽減し、もって福祉の増進を図ることを目的とする。</p> <p>【概要】 1人につき1月当たり5,000円の範囲内の紙おむつを現物で給付する。在宅扱いとなるグループホーム、有料老人ホームへは施設が受取り可能な場合のみ配送する。</p> <p>【対象事業に選定された理由】 事業費が年々増加しており、財政状況や他市の状況を踏まえ、事業の必要性を説明するとともに、支給限度額の見直し、所得制限や自己負担額の導入など、持続可能な制度となるよう検討する必要がある。</p>	<p>1 【制度(しくみ)に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の割合が増えていくことから、社会的なニーズに適合している事業だと考える。また、介護や支援が必要な高齢者の生活支援の推進として市が関わっていく必要がある。 ・自治体によっては選べるおむつの種類が少なく利用者が困っているケースがあるが、川越市の場合は種類が充実しており、利用者の満足につながっているのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護や支援の必要な在宅の高齢者等に対し、紙おむつを給付することにより本人及び家族の経済的負担を軽減し、福祉の増進を図ります。 ・令和2年度は、紙おむつ配達民間事業者8社と協定を締結しており、利用者が多くの商品の中から必要なものを選択することができます。引き続き、利用者が利用しやすい事業となるよう、事業の充実に努めます。 	<p>【改善】</p> <p>事業費が年々増加している状況にあるため、給付限度額の見直しや所得制限の設定、要介護認定の区分に応じた給付など、持続可能で、より配慮が求められる方に必要なサービスが提供できる制度設計について、検討していきます。</p>
	<p>2 【市の考え方に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぜひ10年後も続くよう、真に必要な人に届けられる制度としてほしい。 ・今後、利用が増えることが見込まれ、財政的負担を考えると、所得制限を設ける等の対応が必要。 ・一律に支援するのではなく、厚くすべきところは厚く、自己負担でできる方には自力でよい。 ・財政面から所得制限をする場合でも、その代わりに限度額を少し上げることも考えてほしい。「高齢者にやさしい街」であり続けてほしい。 ・所管課として、制度に対する理解、また理念への洞察がしっかりなされていることを高く評価します。サービスを受ける市民が安心できると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給付限度額の見直しや所得制限の設定などを検討し、持続可能で、より配慮が求められる方に必要なサービスが提供できる事業となるよう努めます。 	
	<p>3 【有効性に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支給方法について、事業者が届けることで利用者の相談に乗れる点や、利用者の買い物の負担軽減の点から、現物支給のメリットは大きい。 ・予算のなかで多くの人に行きわたるよう平等性を高めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現物給付につきましては、継続して実施します。 ・利用を希望する方に事業の情報が行きわたるよう、広報川越、市民のしおり、要介護認定を受けた方へのお知らせ、ホームページへの掲載のほか、民生委員、地域のケアマネージャーを通じて、引き続き、事業の周知に努めます。 	
	<p>4 【効率性に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用面では、実質的なサービスを下げずにコスト(単価)を下げる工夫を期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、複数の配送業者から取り扱い商品の最低価格を徴取し、配送料を含めた紙おむつ単価を決定しております。引き続き、競争性を確保していきます。 	
	<p>5 【手法に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の人だけが恩恵を受けることのないよう制度のPRをしてほしい。 ・制度を知らない、分からないために申請していない人がいるのではないかと。民生委員さんと連携するなどして、制度の周知に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本制度の市民への周知につきましては、全戸配布している広報川越(毎年4月)や市民のしおり、要介護認定を受けた方へのお知らせ、ホームページへの掲載などによる周知のほか、民生委員、地域のケアマネージャーに高齢者サービスのしお리를配布することなどにより周知に努めております。引き続き、より多くの市民の皆様への周知に努めていきます。 	
	<p>6 【今後の方向性について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加に歯止めをかけることは難しく、所得制限をかけない場合、給付額を引き下げ続けるを得なくなる。一定の予算の制限があるなかで、なるべく多くの人に行きわたることが重要なのか、より苦しい人のために給付することが重要なのか、何を優先させるのか検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象人口(65歳以上)が増加し給付額が年々増加している状況にあっても、本制度が持続可能で、より配慮が求められる方に必要なサービスが提供されるよう、給付限度額の見直しや所得制限の設定などについて、検討します。 	